

The FIDIC Annual Review for 2010-2011

FIDIC 年次報告 2010-2011 年

訳責：国際活動委員会 CB 分科会

脚注：この抄訳は若手メンバーの翻訳を分科会で監修したものです

1. 会長からのメッセージ Message from the President

ダボス会議をもって私の FIDIC 会長としての任期が終了する。ちょうど良い機会であるため、この 2 年間と我々の業界の状況について振り返りたい。特に、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、そしてアメリカなど多くの国々を襲った世界的な景気後退の結果、我々が直面した問題について話そうと思う。経済は、2 年前に多くの人が想像していたよりもずっと長い間低迷を続けているが、多くの国々の経済は 1 年あるいは 2 年後には回復し、過去 10 年間のような成長水準まで回復することができるであろう。



悪いニュースと言えば、多くの企業が存続のために仕事量や人員の削減という問題に直面しなければならなくなったことであろう。一方、良いニュースは、我々はこの低迷を周期的なものとして見るができるということである。歴史的に見ると、我々は周期的にこのような景気の低迷を経験しており、その度に我々は以前よりも強くなってきた。多くの企業は、このような不景気を活用して「脂肪」を削ぎ落とし身軽になってきたといえるだろうし、クライアントに対して信頼のおける存在となり、ふさわしい水準の利益性を取り戻す準備ができていることだろう。2 年前のような時代にはお金が第一であり、資金繰りに長けた企業が他社よりも不景気をうまく切り抜けることができたのである。

世界は建設産業に大きく依存しており、それによりエンジニアリングサービスへの需要が生まれている。世界の人口は 2011 年には 70 億人、2040 年には 80 億人に達すると予測されている。人口の増加により家屋、インフラ、健康管理施設や教育施設が必要となる。今後 25 年間でインフラに必要とされる費用は全世界で 50 兆 US ドルを超えると見積もられている。

世界中の建設業は 2011 年は低調だが、2012 年には緩やかではあるが回復を続けるだろう。また、コンサルティングエンジニアリング産業が、業界の内部外部を問わずいくつもの主要な問題に取り組むために、政府や各国の機関と手を結ぶことができるかぎり、世界的な経済状況やこの業界への潜在的な需要の見通しはこれからも明るいだらう。

コンサルティングエンジニアリング産業の課題 Challenges of the Industry

地球温暖化、水不足、エネルギー不足、都市化の圧力（2030 年までに必要とされる発電所のうち 50% 以上が未だ建設されていない）など、世界は様々な問題に直面している。このことが我々のサービスへの需要をつくりだしている一方で、我々の産業が労働力不足という課題を克服しなければならないと予想されている。

事業の資金調達には大きな問題である。官民連携という新しい資金調達の形が出現し、低炭素インフラを実現するだろう。最小限の資金で最大限の効果を出すために、事業費は詳細に調査されることだろう。

世界インフラにおける倫理や公正といったものは我々が国際的に働く上でトラブルの種であり続ける。調整者、政府、そして各国の開発銀行は我々の産業が汚職の危険にさらされていることを気にか

けており、注目を集めている。この文書ができあがる頃には、より多くの企業に FIDIC 公正管理システム (FIDIC Integrity Management System :FIMS) を採用していただきたいと考えている。これまでに FIDIC が提唱してきた公正管理システム BIMS (Business Integrity Management System) を採用した企業で、この問題に関して信頼を増さなかった企業はほとんどない。

我々は、自分たちの職業の地位を、サービスの調達が我々の業界でよくある最低コストに基づかない他の職業と同水準まで引き上げる努力を継続しなければならない。この点において、品質に基づく選定は、エンジニアリングサービスの提供にあたって FIDIC の最優先事項として残るべきである。もし我々が自分たちの会社に再投資し、クライアントの利益のために常に最高のパフォーマンスをするために必要な報酬を得ようとするなら、品質重視の選定は克服しなければならない課題である。

FIDIC の状況 State of FIDIC

我々 FIDIC は依然として強力であり、そして今までの多くの年がそうであったように、今も良い状況にある。過去には、以下のような重要な段階を経てきた。

- ・ FIDIC とヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合 (European Federation of Engineering Consultancy Associations: EFCA) との関係は、協力関係を強化し、互いの活動を補完する合意により強化されてきた。EFCA は関係強化のために、ヨーロッパにおいて FIDIC を代表するものとして、共同ブランドとすることに同意した。
- ・ FIDIC は非会費収入の増加により経済的な強さを維持している。その非会費収入により我々は 7 年連続で同じレベルの基本的なサブスクリプション率を維持することができた。重要な 7 年契約として、FIDIC の活動の主要なスポンサーに BST 社が入ったことが特筆される。
- ・ Peter Boswell 博士の引退を受け、事務局を再編する必要があったが、成功裏に実施されてきた。研修や他の行事に対して増加している会員協会の要望に対応するため、FIDIC 事務局の財源の拡充は継続的に必要とされている。
- ・ ブラジルコンサルティングエンジニア協会 (ABCE) の FIDIC 正会員としての再入会は、南アメリカでより広く認められるための、正しい方向への最初のステップである。多くは無いが、中東における我々の宣伝活動において進展があった。しかしさらなる厳しさがこの先の目標に付加されることになるであろうと予想されている。

FIDIC の行く手には、挑戦しなければならない別の課題が待っている。

また、我々は、開発途上国における能力開発をより重要視する必要がある。さらに、国の開発プロジェクトに参加している地元の企業とより協働するための方法を見つけるには、開発銀行や援助団体と一緒に活動する必要がある。

私は FIDIC の次期代表となる Geoff French へバトンを渡すのだが、彼が FIDIC を次なるレベルへと導いてくれることを確信している。最後に、私は事務局のメンバー、理事会、そして、FIDIC がコンサルティングエンジニアリング業界の声を反映したものとして認められることに努力をおしまない会員協会の指導者たちに感謝を述べたい。

FIDIC 会長 Gregs Thomopoulos

2. 会計報告 Treasurer's Report

2010 年度 Fiscal year 2010

2010 年までの FIDIC の会計は、100,000CHF の赤字予算に対して、36,113CHF の黒字を捻出した。黒字額により、積立金は合計 1,759,181CHF に増加した。登録料を主とする前受（まえうけ）収益を含め、資産は 2010 年末に総額 3,298,398CHF となった。

総収益は、前年を大きく上回ったが、これは純利益ではなく、出版活動やイベント活動等に関する収入および支出会計の方針変更によるものである。

FIDIC の現金資産は、混合通貨における信託預金で慎重に運用されている。ユーロや US ドルに対するスイスフランの安定した強化が、現金資産の評価において影響を及ぼしている。

収入と支出 Income and Expenditure

会員協会（MA）の会費は、多数の協会にとって継続が困難な経済状況下においても、2009 年と同等で推移している。MA 所属企業の従業員数は、一貫した方法で計上されていないため、会費の配分は公平ではないという懸念がある。

トレーニングやセミナーによる収入が大幅に増加したため、イベントによる純利益は、2009 年の 145,000CHF から、2010 年には 360,000CHF へと大幅に増加した。

総支出は、予算以上の約 500,000CHF であった。このうち 300,000CHF はイベントによる売りに関係しているものの、預金の再評価の結果、為替変動による 209,000CHF のうち 155,000CHF は、スイスフラン以外の通貨で保有されている。為替変動による前年の影響は、安定しつつあるが、その他の通貨とは相対的に現在のスイスフランの強さは、より一層際立った効果を示している。実行委員会は、将来の為替変動の影響を減少させる手法を調査中である。

財務実績報告書では、予測が不可能な FIDIC イベントの財務状況がある程度反映しているものの、主要な間接費は予算とほぼ同等である。そして、世界的に不透明な財政状況下でも、全体として満足のいく結果となっている。

貸借対照表 Balance Sheet

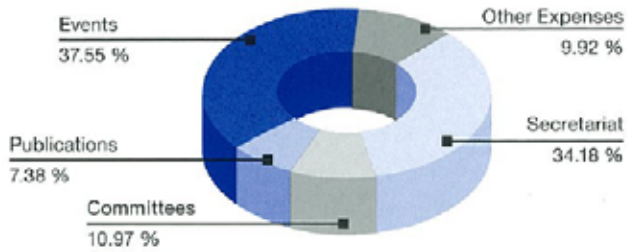
2010 年の終わりにおいても、バランスシートは強固なものであり続け、貯蓄金は FIDIC 理事会のガイドラインに従った額に収まっている。これは、組織解体の際に備え、現金資金を組織の債務と同額程度に保つためである。この額はまた、事務局における年間の支出額にも等しい。

未決済のライセンス収入のうち、事前に支払われた額は 2010 年末時点で 800,533CHF に及ぶ。この収入は開発銀行からの Red Book MDB 版のライセンス料である。このライセンス料による収入は 2006 年以来、組織の主要な収入源となっており、2010 年ではこの収入のうち 173,000CHF が実収入となった。このような実収入への還元はライセンス契約の有効期限 2014 年まで続く。

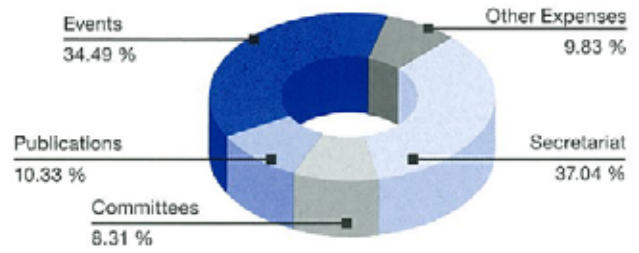
2011 年現在、および 2012 年 Year-to-Date and 2012

2011 年半ばにおいて、組織の収入および支出はともに予算額をわずかに下回っていた。この理由としては、書籍の売り上げやセミナー開催の減少が挙げられる。会費の回収もまた近年と比較して減少しており、コンサルタント業界全体における労働負荷の減少が影響している。

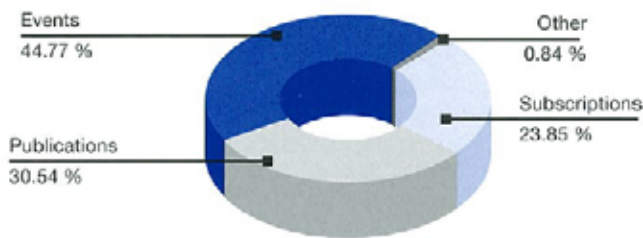
2010 EXPENSES (CHF million)



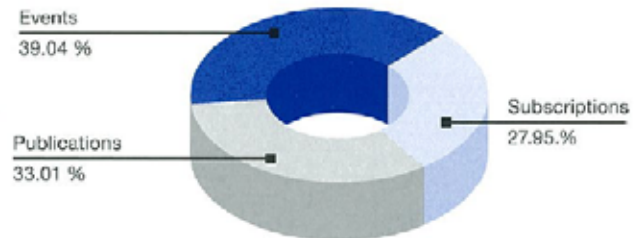
2010 EXPENSES BUDGET (CHF million)



2010 INCOME (CHF million)



2010 INCOME BUDGET (CHF million)



2012 年の予算案は前期の財政実績および、当期における人員配置変更も踏まえた予測に基づいて作成される。2012 年の予算案は、ダボスでの年次総会に提出され、承認される。FIDIC の理事会は、2011 年の予算案と同額の会費を 2012 年の予算案に盛り込もうとしている。これは、会費の増額を 7 年連続で行わない予定であることを意味する。予算案における収入の多くは Strategic Partner BST 社との、スポンサー契約を見込んだものとなっている。なお、2012 年の予算案においては、わずかな収入の発生を見込んでいる。

FIDIC 財務担当 Adam Thornton

3. 世界規模の協会活動 Global Representation

FIDIC のメンバーシップ FIDIC Membership

ニューデリーで開催された 2010 年の年次総会 (GAM) において、3 カ国の新規会員の加入が承認された。新規加入したのは、ブラジル、モンテネグロとウズベキスタンであり、これで FIDIC の会員数は 86 となった。

FIDIC は、トリニダードトバゴ (西インド諸島にある英連邦内の独立国) の建設業共同諮問評議会を新たに準会員として迎えた。

ニューデリーで開催された GAM では、イギリスの ECV と Keating Chambers、フランスの PS コンサルティングが協賛会員として承認を受けた。この数年、FIDIC 会員委員会は、事務局に対して会員数増加を指導しており、2013 年の FIDIC 創設 100 周年を記念し、100 会員の目標を達成すべく活動を続けている。特に、中東、アフリカ、南米がそのターゲットとなっている。

また、会員数の増加に加え、会員委員会は、会員協会 (MA) が利用可能な刊行物及びサービスに付加価値をつけることにも重点を置いている。これは、新たな会員組織の能力開発への支援や、会員国へのサービスを含んでいる。

FIDIC 会員委員会

FIDIC Membership Committee

Subhash Mehrotra, India (chair)

Rasit Ünüvar, Turkey

Kiran Kapila, India

Maxime Mazloum, France

藤江 五郎, 日本

Bisher Jardaneh, Jordan

地域活動における地域代表の役割強化 Enhanced representation during regional activities

アジア、アフリカ、中東の地域グループ及びヨーロッパ、南アメリカの独立連合は、ニューデリーにおける FIDIC 2010 年大会において、その役割を十分に果たした。FIDIC アフリカ地域会員協会連合 (the Group of Africa member Associations: GAMA) による地域活動への一層の支援を目的として、特に地域の特定の要望に焦点を絞るための事務局の支援に向けた提案について、新たなオプションが現在検討されている。国際協調および技術移転とともに、地域組織の能力開発は、依然として重点事項の一つである。

ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合 (European Federation of Engineering Consultancy Associations: EFCA) との関係は、互いに協力し、各々の活動を重複せず、また EFCA の「ヨーロッパにおける FIDIC の代表」というレターヘッドおよびウェブサイトに記されたブランド提携に関する合意により、大いに深まった。この合意は重要かつ潜在的な対立関係を好転させるものであり、委員会活動における各々の組織の緊密な共同参加という結果をもたらした。

FIDIC 代表は全ての EFCA の委員会に指名され、その逆に、EFCA 代表が FIDIC の全委員会に指名されており、全ての活動がお互いに補完し合う事を担保している。FIDIC と EFCA は、また、調達方針・手続き及び EU が出資するプロジェクトにおける FIDIC 約款の活用に関するより深い議論において、欧州委員会 (EC) との連携を含めたいくつかの具体的な課題に取り組む計画である。目標は、それが長期であればあるほど、国際的に認知された基準をコンサルタントの選定およびプロジェクトの実施に用いることの利益を強力に推進させることになる。また、ヨーロッパで実施されている技術革新および持続可能性に関する研究活動は国際的に有効とみなされており、そのため、コンサルティング・エンジニア (CE) 業界に係るグローバルな課題に取り組むために、個々の委員会間のより強い連携が促進されてきた。技術革新は、コンサルティング・エンジニア部門のサービスを向上させること、及び都市化と交通

問題とともに気候変動、エネルギー及び水供給などのグローバルな課題に対する持続可能性の高い解決策を見つけるための鍵であると認識されている。

FIDIC と中南米アメリカコンサルティング・エンジニア連合 (the Pan American Federation of Consultants: FEPAC) の協力関係はますます密接になっている。近年の ABCE - ブラジルの再加入、Enrico Vink 専務理事による 2010 年 10 月アルゼンチンおよびチリ訪問が FIDIC への高まる関心を堅固にし、また国際的なベストプラクティスによる利益の継続を強化した。この地域における大規模なインフラ開発により緊急度が高まっているため、より広範囲な国際協調が必要となっている。それに加えて、この地域における国際的に注目された投資およびプロジェクトの結果として、FIDIC 約款の活用が拡大しつつある。

湾岸地域の関連事項としては、2010 年 10 月に開催された湾岸エンジニアリング連合 (the Gulf Engineering Union: GEU) の年次フォーラムが、より一層の協力に向けた議論の場を FIDIC に提供した。FIDIC は GEU と、地域会議の開催の可能性を検討すると共に、GEU の各会員組織の FIDIC 会員登録に向けた総合的アプローチについての議論を継続して行っている。

FIDIC 理事会

FIDIC Executive Committee

FIDIC 理事会は、コンサルティング・エンジニア (CE) 業界における熟練した実践者であり、FIDIC の戦略的指導を確保するために、事務局を通じてその時間と知識を自発的に提供している。それに加えて、理事会は、その他の FIDIC 委員会との連絡窓口として機能し、理事会内及び各委員会が行う作業の緊密な調整を保証している。また、理事は、FIDIC の政策および原則を普及させるため、主要機関・団体への対応において重要な役割を果たしている。準会員国への訪問は CE 業界との関係を強固にし、地域主体による活動への支援を可能としている。2010 年度の理事会には欠員はなく、ニューデリー大会での総会において、Geoff French を次期会長として指名した (写真)。次の理事選出はスイスのダボスで開かれる 2011 年の総会において行われ、3 名の欠員が補充される予定である。FIDIC 理事会の紹介および写真は FIDIC ウェブサイトにおいて閲覧可能である。



Greggs Thomopoulos, USA (President)

Geoff French, UK (President-Elect)

廣谷 彰彦, 日本

Bisher Jardaneh, Jordan

Jae-Wan Lee, Korea

Adam Thornton, New Zealand (Treasurer)

Patrick Batumby, Uganda

Pablo Bueno Tomas, Spain

Adreas Gobiet, Austria

地域代表の支援 - GAMA Supporting regional representation - GAMA

FIDIC アフリカ地域会員協会連合 (GAMA) の地域活動を支援するための新たなオプションが事務局において検討されており、この作業は ACNET - タンザニアへの委託を通じて進められている。アフリカ地域におけるより強力なネットワークの構築が計画されており、今後 2 年間にわたって会員国数を増加させる事を目的として成長戦略が策定される予定である。また、GAMA は年次会議における主催国との緊密な協力を通じて、より戦略的な方法を採用している。能力開発は、アフリカ地域内企業の強化に対するより効果的な方法のみならず、海外企業との協力関係を強化するための方法を検討する上で、特に重要事項の一つである。その一方で、FEPAC が作成した提案では、ペルーでの事務局設立に向けて実効的な地域代表を擁立する事の重要性が強調されている。

アジアは技術移転に重点的に取り組む Asia focus on technology transfer

持続可能性に向けた創造的、革新的かつ実用的な方法を議論する場として、2011年4月25～26日にかけて、クアラルンプールにおいて「グローバル化する世界における持続可能性」というテーマで TCDPAP/FIDIC ASPAC 会議が開催され、持続可能な開発のための新しい方法、解決策およびメカニズムに関する成功事例及び実践例が注目された。この会議は建設産業開発委員会（Construction Industry Development Board: CIDB）により実施され、FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合（Asia-Pacific Member Associations : ASPAC）およびアジア太平洋地域の技術コンサルティング開発プログラム（the Technical Consultancy Development Programme for Asia and the Pacific: TCDPAP）との共同で開催された。

Hon 氏による開催挨拶に続き、Dato Shaziman bin Abu Mansor（マレーシア労働省）、YBhg. Datuk Ir Hamzah Hasan（CIDB 議長）、Dr. K.A. Chaudry（TCDPAP 会長）、Gregs Thomopoulos（FIDIC 会長）、Dennis Sheehan（ASPAC 議長）が挨拶を行い、地域の強力な経済成長を持続可能なものにするための国家主導による取り組みが紹介された。また、一連のワークショップでは、グリーンエネルギー発電、グリーンビルディング（緑の建築）、環境に優しく低炭素型の開発を促進するためのコンサルタントの役割が検討された。さらに、環境戦略の奨励、持続可能な建設の費用、設計による持続可能性の促進、環境に配慮した施設の設計および建設、開発技術の産業化、再生可能エネルギーおよび高速輸送システム等が取り上げられ、また新しい工学的な方法、特に地表安定化に関する土壌生物学が紹介された。これらのプレゼンテーション資料は委員会のウェブサイトにて閲覧可能である。

Dr. Hum-il Moon（KENCA - Korea 議長）、Gregs Thomopoulos（FIDIC 会長）は委員会において FIDIC-KENCA 公認研修プログラム設立の同意書に署名した。これは FIDIC 約款に関する約 160 時間の研修および 2 日間にわたる成功事例の学習から成る。

4. 国際行事と情報交換 Global Events and Communications

FIDIC2010 ニューデリー大会 FIDIC 2010 Conference, New Delhi

2010 年のニューデリー大会は「Managing Innovation-The Way Forward」(コンサルタント業界のイノベーション 将来展望) というテーマの下、素晴らしい成果を収めた。発表者は気候変動が顕在化し、世界経済が停滞する環境下、2009 年のロンドン大会での議論を引き継ぐ形でテーマに取り組んだ。ニューデリー大会の参加者は 65 カ国からの総勢 700 名であった。現在の地球規模の諸問題を解決するために「革新的なこと」をどのように利用することができるか、そしてどのように利用すべきかについて、CE 業界、団体のリーダー達から提言され、多くの参加者が議論に加わった。インド CEAI 主催の下、Kiran Kapila 氏が議長を務めた大会は、鉄鋼省の Virbhadra Singh 大臣のスピーチで幕を開け、Greggs Thomopoulos FIDIC 会長は日々刻々と変化する今日の環境の中において、意思疎通を十分行うことと提言を行っていくことの重要性を訴え、顧客や団体にとっての「信頼されるアドバイザー」としての役割を強化するよう CE 業界に促した。



大会ではまた、FIDIC s Young Professional Forum (YPF) を構成する 40 カ国、85 名のヤングプロフェッショナル向けのイベントも数多く開かれ、このうち 55 名が FIDIC ヤングプロフェッショナル・マネジメント・トレーニング (YPMTP) に参加した。YPMTP の参加者が Greggs Thomopoulos FIDIC 会長より修了書を授与される際、会長は将来のリーダー、明日を革新していく若手技術者を励まし、支援することの重要性を強調した。ニューデリー大会の YPF では新議長として Michele Kruger 氏 (南アフリカ) が、副議長として Selena Wilson 氏 (カナダ) がそれぞれ選出された。CE 業界の持続可能性等といった地球規模の課題に対する彼らの考え方は、今後を考える上でこれから益々重要になる。この他、専門能力の育成と同様に、昇進や採用を含んだ企業体制に関して彼らが果たした貢献には大変感謝している。

FIDIC の会員でもある ACEC-Canada はニューデリーにいる機会を活かし、カナダ輸出開発公社 (EDC) やカナダ外務国際貿易省 (DFAIT) とも協力して大会に参加した会員企業向けの情報交換、ネットワーキングの場を設けた。2011 年 10 月 2 日から 5 日までスイスのダボスで開催される次期大会に向け、同様に交流の場を設けたいと考える会員がいれば FIDIC としても積極的に支援していきたいと考えている。

FIDIC 会員スウェーデン協会 100 周年を祝う FIDIC member in Sweden Celebrates 100th anniversary

2010 年 10 月、スウェーデン協会 (STD) は 100 周年記念式典を開催した。記念式典では、CE 業界の革新的な進化、及び、スウェーデンのめざましい成長と発展を示すロードショーが、STD によって紹介された。STD は 740 の加盟企業、2 万 5 千に昇る従業員を抱え、スウェーデンの建築家、建築技師および CE を代表する組織である。FIDIC の専務理事である Enrico Vink 氏は FIDIC 代表としてこの祝賀

会に参加した。業界の強化という観点から、スウェーデンの 100 周年記念は 2013 年の FIDIC100 周年記念の鍵となるものである。

アフリカに焦点を当てた FIDIC 2011 年大会 FIDIC 2011 Conference to focus on Africa

中東および北アメリカ地域における政治的な変化を受け、FIDIC は年次大会をチュニジアからスイスのダボスに移すことを決め、FIDIC アフリカ地域会員協会連合(Group of Africa Member Associations : GAMA) を含む全関係者との協議の結果、アフリカ地域へ関心を持った大会とすることに合意した。中東・北アフリカ地域 (MENA:the Middle East and North Africa) の最近の出来事は、世界や地域を通してネットワークに対する新たな注目を集めており、従来からのインフラ、投資および経済開発の密接な関係が更に重要になっている。

年次大会では、GAMA の戦略的な関心事である能力開発、特に、地域レベルでの国際的なベストプラクティスの適応と導入という事項に焦点を合わせた。年次大会では、企業同士が相互に影響し合い、必要に応じてリソースを共有し、企業が顧客および利害関係者との関係を強化する方法にも着目した。参加者はビジネスおよびエンジニアリングの専門家の話を聞き、また議論を行う。

過去の大会の方法とは異なり、今年の大会は会議運営を専門とする Congrex に外部委託を行った。大会プログラムは FIDIC の責任であるが、全ての会議の手配およびウェブサイトの運営は Congrex の責任で行う事とした。

ウィーン会議における共同宣言 Joint Declaration Issued at Vienna Conference

FIDIC 会長の Gregs Thomopoulos と FIDIC 理事 Andreas Gobiet は、2011 年 5 月 12-13 日にウィーンにて開催された「エンジニアリングと建設プロジェクトマネジメントを成功に導くための重要要素に関する合同会議」において、2 日目の「革新的な契約と賢明な契約管理」に関するセッションにて講演を行った。会議はオーストリアコンサルタント協会 (ACA、オーストリア協会)、FIDIC、国際建設プロジェクトマネジメント協会、オーストリアプロジェクトマネジメント、オーストリア建築エンジニアリング企業協会によって開催された。FIDIC 理事会が会議直前に緊急に開催され、この会議はウィーン宣言として発表する場とされた。宣言の内容は、クライアントに対する要望として

- ・ 卓越性と革新の促進
- ・ 品質ベースによる選定
- ・ 価格競争と不均衡な契約の回避
- ・ すべての基盤が固まってくるプロジェクト初期段階の重要視すること
- ・ 変化の早い社会の要求に応えられる若手技術者の育成
- ・ ビジネス公正管理のサポート

このようなイニシアティブは、ローカルイニシアティブを支え、またイメージの向上や経済発展へのコンサルティング・エンジニアの寄与を促すものであり、FIDIC 及び業界全体にとって重要なものである。

初の Red Book MDB 版会議の成功 Success for first ever MDB Harmonised Construction Contract Conference

上記会議は、FIDIC、ヨーロッパ国際建設協会 (the European International Contractors: EIC)、国際建設林業労働組合連盟 (Building & Woodworkers International: BWI) により、2011 年 1 月 27、28 日に

ブリュッセルにて開かれ、成功を収めた。この会議はヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合（European Federation of Engineering Consultancy Associations: EFCA）の後援を受けている。会議では、FIDIC の Red Book MDB 版の論理的根拠や、契約約款がどのように用いられたか、当初 5 年間の利用者の経験、将来の改善などについて分析が行われた。上記の契約は、調達手順の標準化に向けた共同のもっとも成功した事例として広く認知されており、またこれは銀行が融資する、世界中の数十億ドルに及ぶインフラプロジェクトで用いられている。主要金融機関のうち 9 つが会議に参加し、またカリブやインドネシアからも参加者があった。ブリュッセル会議では、世界銀行、欧州投資銀行、国際建設林業労働組合連盟、国際建設業連盟（CICA）、EFCA によるプレゼンテーションが行われた。

FIDIC は、引き続き主要な金融機関との年次の多国間及び二国間の協議を開催し、融資の優先順位、調達方針や手順の修正、及び業界に影響する問題についての検討を行う。汚職、気候変動、持続性が含まれる。これらの議論においては、理事会シニアメンバーによるマニラ、ロンドン、ワシントンの多国間金融機関への訪問が行われた。

二国間における融資機関（例えば、政府援助機関）の間で Red Book MDB 版導入への関心が高まっており、これにより FIDIC の標準契約約款の認知度及びその承認も拡大してきている。更にこれらの活動の増加によって、FIDIC には、契約約款の使用のためのトレーニングや情報の提供などのダウンストリームへの課題が課せられた。

5. ビジネス実務 Business Practice

FIDIC 契約約款 FIDIC Contracts

FIDIC 契約委員会は活動の拡大を続けており、委員会に属するいくつかの作業部会は、既存の文書を更新するだけでなく、新しく図書を出版する準備で多忙な 1 年となった。

FIDIC 契約委員会

FIDIC Contracts Committee

Philip Jenkinson, UK (chair)

Christoph Theune, Germany

Zoltan Záhonyi, Hungary

Jse Amorim Fria, Portugal

Geoff French, UK, from the FIDIC Executive Committee

Christopher Seppala, France (Legal Adviser)

Nael Bunni, Ireland (Special Adviser)

Axel Jaeger, Germany (Special Adviser)

Michael Mortimer-Hawkins, Denmark (Special Adviser)

Christopher Wade, UK (Special Adviser)

DBO 契約約款ガイド DBO Contract Guide

長い間待ち望まれていた、FIDIC による

Design-Build-Operate プロジェクトの契約条件 (DBO) ガイドが、2011 年中頃に出版された。この出版物は、利用者に図書の作成過程での思案と意図を解説することを目的に、作成委員会が作成した。

FIDIC ブックショプで、このガイド (150 ページ) の書籍版と電子データ (PDF) 版を購入可能である。

調達手順ガイド Procurement Procedures Guide

この重要かつ主要な図書は数年間の検討の末、FIDIC ダボス大会で発行される予定であり、将来的には FIDIC 年次大会のフォーラムでは、調達実務に関する議論に追加される。この包括的なガイドは調達過程のすべての段階を網羅し、コンサルティング・サービスと工事契約に対して、産業界とクライアントに最適な実務の解説と提案を提供している。

共同企業体とコンサルティング下請け契約 Joint Venture and Sub-Consultancy Agreements

本書は、既に周知されている FIDIC 発注者・コンサルタント間の標準サービス契約書 (White Book) と十分に調和するように、コンサルティング・エンジニアのための一連の図書にある重要な構成要素が更新されている。多くの国境を跨ぐコンサルティング会社間の共同企業体における国際標準化への関心の高まりと要請に応じるために、ダボスでの年次会議での主要なサブテーマとして、これらの図書が適時追加される。

工事契約に関する下請け Subcontract for Construction Contracts

本書のテスト版は 2009 年後半に発行されており、産業界からのフィードバックとコメントが現在組み込んだ第一版は、2011 年後半に発行される。

1999 年の契約約款シリーズの更新 1999 Suite of Contracts Update

通称 FIDIC レインボーと呼ばれ、世界的に認識され、広く使用されている FIDIC 契約約款 (Red Book、Yellow Book、Silver Book) の更新作業が進められている。特別に設置されたタスクフォースは、Red Book MDB 版作成の際の経験を踏まえ、利用者および研修者からの何百ものコメントや提案を考慮しながら、

まず、プラント及び設計施工契約条件書 (Yellow Book) の改訂作業を先行している。ロンドンでの FIDIC 国際契約約款利用者大会の後に見直され、他の契約約款とともに 2011 年末に発行予定である。

浚渫業務と埋立業務の契約約款 Dredging and Reclamation Works Contract

IADC (国際浚渫企業協会) の作業グループでは、浚渫事業と埋立事業の契約約款の更新に取り組んでいる。この契約約款は、数年前の初版発行以来、浚渫産業から多くの支持を得ている。

Yellow Book と Silver Book の下請契約約款 Subcontract for Plant & Design-Build and for EPC Turnkey Projects

別の新しい作業グループは、Yellow Book と Silver Book を利用した下請契約約款の書式の準備に取り組んでいる。

紛争裁定サービスの拡大 Dispute Adjudication Services Expand

FIDIC では、アジュディケーター (紛争裁定人) FIDIC 会長認定リストと平行して、FIDIC ガイダンスに則った各国のリスト (ナショナルリスト) の設立と公認トレーニングコース形成のため、FIDIC 会

FIDIC 紛争裁定人評価パネル
FIDIC Assessment Panel for Adjudicators (APA)
Peter Chapman, UK (chair)
Cyril Chern, UK
大本俊彦, 日本

員協会に助成を行っている。紛争裁定人の候補者への公認トレーニングの効果的な浸透を目指し、FIDIC は、紛争解決委員会を設立した。当委員会は、既存モジュールを補足する先進的な契約訓練モジュールを開発した。それに前後し、FIDIC 会員協会によってナショナルリストを評価・設立・継続するための取組みの中で、FIDIC は、モデル化した紛争裁定人評価ワークショップ (Adjudicators Assessment Workshops : AWW) を提供するための公認事業者を設定した。公認 AWW は、2 年毎に FIDIC 紛争裁定人評価パネルから構成されるものである。最初の公認 AWW は、日本の AJCE が引き受け、国際協力機構 (JICA) が主催した。この機会を利用し、FIDIC は AWW 開催の直前に新しいモジュールのセミナーを実施し、評価ワークショップへの参加資格を得ている 16 名が参加した。

国際的に評価されている契約約款発行している FIDIC の重要な役割は、国際プロジェクトにおける経験豊かな紛争裁定人を任命することである。小さいながらも高度な経験のある FIDIC パネルは、FIDIC 会長認定紛争裁定人リストに含まれる候補者の評価と、そのような候補者に期待される高水準の維持に対し責任がある。

FIDIC は、これらの先進的な取組みを通じて、多様化する需要に見合った国際レベルの紛争解決の専門家の有用性を広める。加えて、プロジェクト着手時の紛争裁定委員会の任命による効果は、プロジェクト進行中の契約担当者に対する紛争を防ぐためのタイムリーかつ有用なアドバイスを行う能力を示すことでも高められる。

コンサルタント選定の重要性は優先事項 – QBS の改定 Importance of Consultant Selection remains a priority - QBS Upgraded

最適なコンサルタントを選ぶことは、どんな発注者でも実行できる、最も重要な決定事項の1つである。コンサルタントを品質に基づいて選択することによる利益にもかかわらず、世界市場は知的専門知識を提供するコンサルタントを最適に選定する方法に関し、不十分な評価、および、事の重大さに苦しみ続けている。特に公共部門の調達、専門的アドバイスの提供に対するコスト削減を行ったとしても、依然として高い品質のアドバイスとコスト効率の良い設計ソリューションを得ることができるといった誤った信念のもと

ビジネス実務委員会

Business Practice Committee

Rick Prentice, Canada (chair)

Fatma Cölasan, Turkey

Samarjit Chatterjee, India

Andrew Read, New Zealand

狩谷 薫, 日本

Peter Rauch, Switzerland

Adam Thornton, New Zealand

Jan Van der Putten, Belgium

で、資格と価格ベースの選択に依存し続けている。FIDIC ビジネス実務委員会は、品質のみに基づいてエンジニアを選定する利点についてより新しい事例を組み込み、品質に基づいた選定(QBS)の FIDIC ガイドを改良および強化した。さらに、新しいガイドは、そのような専門的サービスのために公平な料金の交渉方法をいくつか詳細に説明する。新しいガイドは 2011 年の FIDIC 大会で発刊予定である。

同様な課題の一部として、QBS ガイド改訂版との互換性を保証するために、コンサルタント選定手法に関するより広いガイドもまた更新された。

実務ガイド改訂：FIDIC 知識体系のより広い改訂の一環として、また、この総合的な実務ガイドの中で把握できるよう、ビジネス実務セクションはコンサルタント選定についての最新のアドバイスを含むよう注意が払われた。また、調達および実務のベスト・プラクティスの境界の側面も含まれている。FIDIC の実務ガイドは、コンサルタント技術会社が実践する、国際的な教育として広範囲に使用されている。

建設部門 DOS の前進;建築部門において 2008 年に定義されたサービスガイドが成功を収めたため、委員会は建設部門における同様のガイドに注目している。

景気循環：ヨーロッパにおいて、新事業モデルは、例えばコンサルタント技術者によるプロジェクト作成を用意にする役割と説明された。(官庁に対して開発・構築および賃貸された学校の実例) これは、暫くの間一般的だった PPP の概念とは異なる。クライアント/顧客はインフラストラクチャーの質を保証するためにエンジニア&建築家に期待している。これは、次には信頼されるアドバイザーとしてコンサルティング・エンジニアのための新しい役割を示唆する。委員会は、この新事業モデル上の一層のガイダンスを提供することを期待している。

国際貿易のルールは改善 International Trade Rules Improved

FIDIC のアメリカ特使ロバート・スミスは、貿易の模範法を調査する国連国際商取引委員会の作業部会に出席した。彼は国際商取引における専門サービスの調達での成功事例 (best practices) を示し、世界的事業における FIDIC 契約約款の適用と、QBS によるコンサルタント調達の利益について、大きな支持を得ることができた。

6. FIDIC 會員協會 FIDIC Member Associations and Associates

Albania
AAACE

Australia
ACEA
www.consultaustralia.com.au

Austria
ACA
www.aca.co.at

Azerbaijan
NECSA
www.necsa.az

Bahrain
BSE
www.mohandis.org

Bangladesh
BACE
www.bacenet.org

Belarus
BelAIK

Belgium
ORI
www.ori.be

Bosnia
ACEBH
www.uki.ba

Botswana
ACEB
www.aceb.org.bw

Brazil
ABCE
www.abceconsultoria.org

Bulgaria
BACEA
www.bacea-bg.com

Canada
ACEC
www.acec.ca

China
CNAEC
www.cnaec.org.cn

China, Hong Kong
ACEHK
www.acehk.org.hk

China, Taipei
CAEC
www.caec.org.tw

Croatia
CACE

Czech Republic
CACE
www.cace.cz

Denmark
FRI
www.frinet.dk

Ecuador
ACCE
www.acce.com.ec

Egypt
ESCON

Estonia
EAACEC
www.epbl.ee

Finland
SKOL
www.skotry.fi

France
CICF-SYNTec

Germany
VBI
www.vbi.de

Ghana
GAC
www.ghanaconsultants.org

Greece
HELLASCO
www.segm.gr

Hungary
AHCEA
www.tmsz.org

Iceland
FRV
www.frv.is

India
CEAI
www.ceaindia.org

Indonesia
INKINDO
www.inkindo.org

Iran
ISCE
www.irsce.org

Ireland
ACEI
www.acei.ie

Israel
IOCEA
www.iocea.org.il

Italy
INARSIND
www.inarsind.it

Japan
AJCE
www.ajce.or.jp

Jordan
JAREC
www.aeb-council.org

Kazakhstan
KACE

Kenya
ACEK
www.acek.co.ke

Korea
KENCA
www.kenca.org

Kuwait
UKEOCH

Latvia
LIKA
www.lika.lv

Lebanon
LACE
www.ordre-ing-bey.org.lb

Lithuania
LACC
www.lacc.lt

Luxembourg
OAI
www.oai.lu

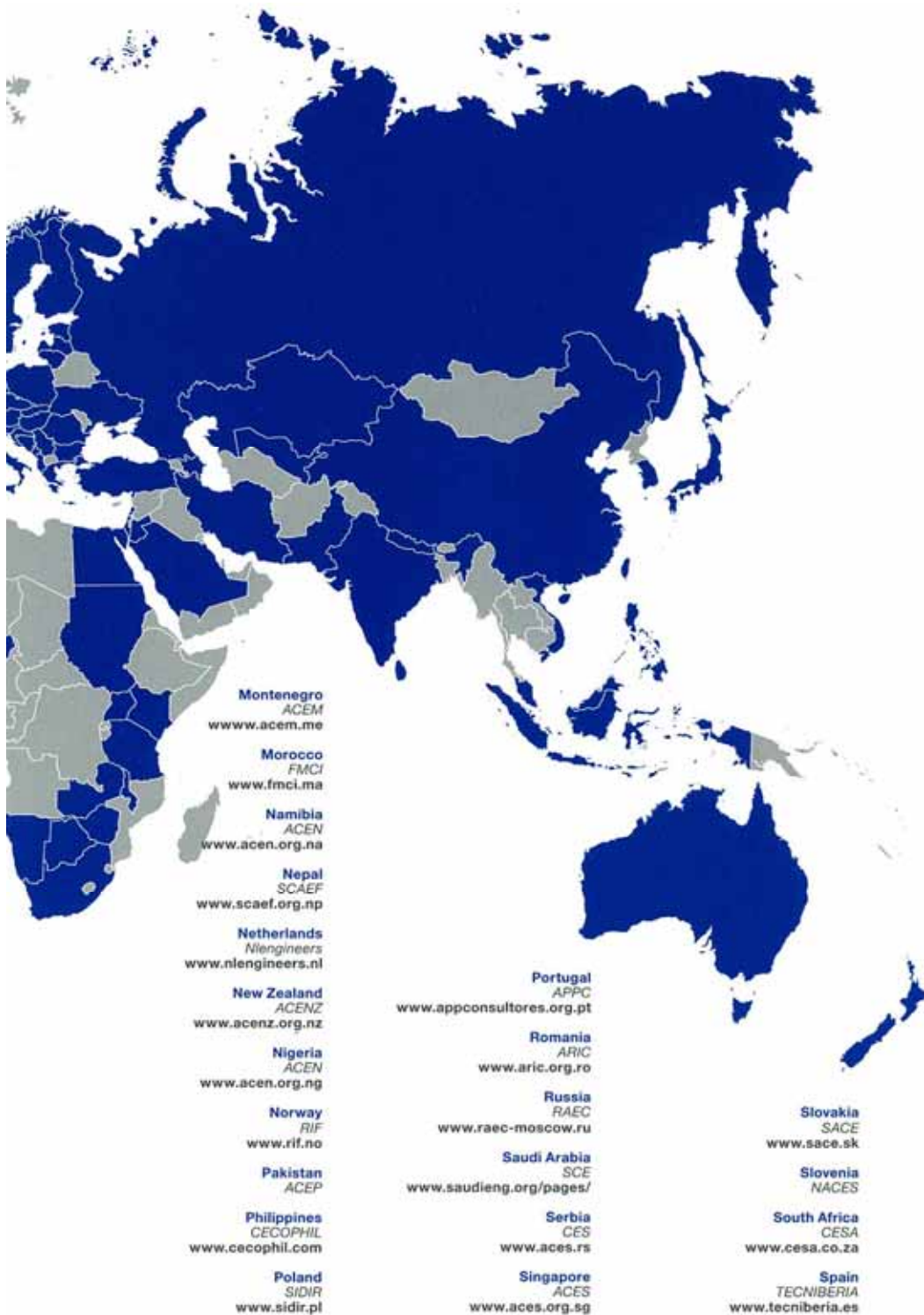
Malawi
ACEM

Malaysia
ACEM
www.acem.com.my

Mali
OICM

Mexico
CNEC
www.cnec.org.mx





7. 能力開発 Capacity Building

新しい教育プログラムを検討 New Mentoring Programme Mooted

FIDIC 能力開発委員会により新しい教育プログラムが作成されている。本プログラムは管理能力と品質確保を強化するように特に配慮されており、発展途上国の経験未熟な幹部に対して、FIDIC 会員会社の経験豊富な元幹部がマンツーマン形式で指導する。対象国は、まずコンサルティング・エンジニア (CE) の定着していない国、それから、CE の伸び代のある国である。

能力開発委員会

Capacity Development Committee

Henning Therkelson, Denmark (chair)

Javad Haddad, Iran

Richard Kell, Australia

Graham Pirie, South Africa

Andreas Rév, Hungary

John Ritchie, Australia

桜井 一, 日本

この教育プログラムは、受託会社の競争力を強化し、魅力ある雇用主としての評価を改善し、さらに収益性を高めることが期待できる。加えて、シニア幹部は対象となる国々の若い世代に彼らの知見を伝えることを楽しみにしている。

若手専門職経営トレーニングコース盛況 High participation in Management Training courses

2011 年の FIDIC 若手専門職経営トレーニングプログラム (YPMTP) コースには 47 人と、多数の参加数を確保し続けている。2011 年のコースは 2 月の上旬に開始された。このコースが開かれている間、参加者は eFIDIC トレーニングシステムを使ってオンラインで学習し、回答や討議を行う。コースの最後の週、すなわち FIDIC 年次大会直前には、参加者は直接顔を合わせて討議を行うだけでなく、人脈形成のイベントに参加することができる。これらのすべての活動についての最終報告は FIDIC2011 ダボス大会で発表される。将来有望な管理職や未来のリーダーと期待されている若手に対するこのようなトレーニングは、ビジネスの手法に関する彼らの知見を広げており、またコンサルタント業に影響する国際的な課題を彼らに知らせることが出来ている。トレーニングの最終結果は、若手専門職 (YP) が世界中から集まって FIDIC 年次大会で顔を合わせ、FIDIC の YP フォーラムでも紹介され、業界に影響するより広い問題について意見を交わす人脈を作り、また、FIDIC の政策の実現に貢献する。

実務者ガイドの改訂 Guide to Practice Receives Upgrade

コンサルタント会社の運営および管理に適用できる FIDIC のベスト・プラクティスの包括的なガイドには、委員会が重要な関心を示している。FIDIC 会員協会内における企業の能力開発要請に対応するため、ビジネス実務、リスク管理、財務管理、HR 管理および他の手法をカバーする様々なセクションはすべて、改善され、加筆される。関連して、会員協会において現在必要とされている教育研修とその能力の実態についての調査も実施された。その調査結果の要点は FIDIC 年次大会のワークショップで公表され、FIDIC を通じて現在利用可能なオプションや機会を参加者にも知ってもらい、また、現在実施中の教育研修と能力開発に対する内部からの要請を満たすように努める予定である。

BST Global 社との戦略的パートナーシップ協定に署名 FIDIC signs Strategic Partnership agreement with BST

2011 年 1 月に、FIDIC は BST Global 社との戦略的パートナーシップ協定を公表した。BST Global 社は、エンジニアリングコンサルタント業、建築家および環境コンサルタント業向けの会社業務管理ソフトウェア・ソリューションを提供する世界的なプロバイダーである。この協定では、BST



Global 社を、会社業務管理ソフトウェア・ソリューションとエンジニアリングおよび環境コンサルタント業サービスの分野で包括的・独占的な FIDIC の戦略的なパートナーと指定している。この新しい戦略協定の一部として、BST Global と FIDIC は、FIDIC の戦略政策の多く、特にコンサルティング会社のトレーニングおよび能力開発の分野で、世界的に協働することに合意した。

ヨーロッパのレポートの中で識別された競争力における重要な要素 Drivers for Competitiveness identified in European Report

産業の競争力に関するヨーロッパ委員会報告書が 2011 年の初めに公表された。この報告書は、建設分野における産業の競争力における重要な要素を理解することを目標としている。FIDIC のヨーロッパの代表である EFCA と共同し作成され、建設現場の統計データと、可能な限り建設資材製造業と建設関連サービスに関する専門業の統計データが用いられた。EU 内のエンジニアリング・サービス市場における多くの一般的傾向が明らかにされた。特に、エコサイクル費用、建設の管理上で果たす民間部門の役割の増加、また、比較的大きな会社の間での合併・買収について強調されている。

FIDIC のヨーロッパの代表である EFCA は、欧州連合各国を支援し、当産業を代表して欧州委員会へ提言することによって、当産業に影響を与える重大問題に対して、ヨーロッパとしての展望付け加えようと模索している。FIDIC 作業部会は、当業界に対するこれらの重要な問題についての国際的な展望について現在検討しており、FIDIC 2011 大会でその計画を公表する予定である。

8. 品質管理 Quality Management

品質管理基準にリスク管理の導入を検討 Standard considers incorporating risk and knowledge

世界標準化機構(ISO)は「品質管理の概念：今後 SC2 作業部会で検討すべき概念の分析」を発表した。これは 2015 年までに出版される ISO9001 品質管理基準改訂版の改訂計画の基本コンセプトに関する議論を促進させる目的がある。こ

品質管理委員会
Quality Management Committee
Walater Painsi, Austria (chair)
Kiran Kapila, India
Martin Hohberg, Switzerland

の中で最も重要で新しい検討項目は、統合されたリスク管理の必要性についてであろう。品質の構築には、リスクを基準においた考え方、特に品質基準に達しない可能性についての品質管理を含めた組織の様々な管理システムの基本側面であることを、まずはっきりさせる必要がある。また、リスク増大の要因と考えられる気候変動のような地球規模の課題に対する革新を期待する市場において、質の高いサービスを提供することがコンサルティングエンジニアに求められていることが明確になってきている。FIDIC 品質管理委員会は、ISO 基準にリスクを取り込むことが、クライアントの信頼を深め、また下請けコンサルタントや組織プロセスの管理手法を改善することにより産業界に利益がもたらされることを確実にするための活動を行った。

9. リスクと責任 Risk and Liability

責任制限 Limitations on Liability

コンサルタント会社を実施するプロジェクト策定の中で、リスク管理は依然として重要な要素である。様々なリスクを理解し、管理に最も適した関係者にリスクを割り振ることが、我々の産業界に突きつけられた課題であり続けている。そして、この産業界では、しばしばコンサルタントにリスクを転化しようとしているのである。FIDIC リスク管理委員会により作成された政策綱領 (policy statement) の改訂版では、リスク管理に対する公平かつバランスの

リスクと責任に関する委員会
Risk and Liability Committee
Kevin Corbett, UK (chair)
Stephen Bamforth, UK
蔵重 俊夫, 日本
Martin Hohberg, Switzerland
Steve Jenkins, New Zealand
Adam Thornton, New Zealand
Ulla Sassarsson, Denmark

取れた取り組み方を理論的に説明するだけでなく、リスク軽減のためのガイドラインをも提示している。

また、FIDIC リスク管理委員会は、FIDIC 能力開発委員会と共同で、コンサルタント会社のリスク管理のプロセスや手順を概説する能力開発のためのモジュールを改訂する作業も行った。

10. FIDIC 大会 FIDIC Word Consulting Engineering Conference

FIDIC 大会 (2011-2014)	
FIDIC 2011 ダボス (10月2~5日)	www.fidic2011.org
FIDIC 2012 ソウル (9月9~12日)	www.fidic2012.org
FIDIC 2013 パルセロナ (9月15~18日)	www.fidic2013.org
FIDIC 2014 リオデジャネイロ (9月14~17日)	www.fidic2014.org

FIDIC 大会 FIDIC Word Consulting Engineering Conference (WCEW)

FIDIC 大会は、コンサルティング・エンジニア業界の一番の交流イベントである。この業界に従事している世界のコンサルティング・エンジニアの協会、企業、パートナー、専門家が、90以上の国から集う。

FIDIC 大会では、コンサルティング・エンジニア業界、およびそのパートナーが、台頭しつつある地球規模の問題と傾向について議論、発言し、情報や最善のビジネス実務を交換し、コンサルティング・エンジニア企業と専門職の能力を開発し、先進世界と発展途上世界の共同作業を強化することができる。

FIDIC には、コンサルティング・エンジニアの年次世界大会の大きな可能性を強化する意欲的な計画がある。FIDIC 大会のメインテーマは、ビジネス事例の突っ込んだ分析をすること、およびコンサルティング・エンジニア業界とその顧客に直接の影響を及ぼす地球規模の問題や課題に関する議論をすることである。FIDIC 大会は、関心分野において地球規模の変更やニーズに適合するのを支援するための最良の情報とガイドラインを業界に提供する国際的で重要な講演者、専門家を招待する。

ベスト・プラクティスに関する情報を入手し、学び、ビジネスを改善して下さい！

次回の FIDIC 大会に参加するために予定を空けておいてください。

FIDIC 2012 ソウル - 緑の向こうに - 新しいパラダイム FIDIC 2012 Seoul -Beyond green- a new paradigm

2012 年の FIDIC 大会は韓国のソウルで開催される。その大会の主要テーマは「-Beyond green- a new paradigm - 緑の向こうに - 新しいパラダイム」である。従来の「緑の」アプローチをはるかに越える地球規模の難題を持続的に解決する方策を確実に開発・実施することによってコンサルティングエンジニアがどのようにして社会で主要かつ重要な役割を果たしてきたかがその大会で実証されるであろう。

2013 年の FIDIC100 周年が近づいているため、FIDIC 大会 2012 ソウル大会は、今日の地球規模の緊急な難題に対して社会の持続可能解決策実施を支援するコンサルティングエンジニア業界の成功と業績を強調するであろう。

FIDIC 大会についての詳細は、大会ウェブサイトをご覧いただくか、FIDIC 事務局に連絡を取って下さい。



FIDIC2013 の計画 - FIDIC100 周年大会およびエキシビション FIDIC 2013 -the Centenary Conference and Exhibition

2013 年 9 月 15 日～18 日にバルセロナで開催される FIDIC100 周年大会の立案作業が継続して行われている。

この重要な行事を祝うイベントの一つとして、FIDIC はある特別な賞を検討している。その賞は過去 100 年にわたるプロジェクトとコンサルティングエンジニアの顕著な業績を表彰するもので、コンサルティングエンジニアの仕事および彼らの世界的な開発と持続性に対する貢献の宣伝に役立つであろう。対象はプロジェクト、および国際的に認知された個人によるサービスとしており、技術的長所と革新を実証し、永続的かつ持続可能なものになることが予想される。2012 年に FIDIC 会員協会へ候補の募集をする。



ビジネスプログラムは、William Howard (CDM、アメリカ) および Volker Comelius (CSZ、ドイツ) が率る委員会を中心に検討されている。その委員会は、様々な電話会議や会合を開いており、新流行型でやりがいのある大会プログラムの作成に焦点をあてる。バルセロナ大会は、FIDIC 史の過去 100 年の業績を振り返って祝福することを目指すだけでなく、将来に目を向けてコンサルティング・エンジニアの将来の挑戦と可能性を探求するものとなるだろう。今回のイベントは前回大会とは大きく異なり、グローバルなインフラストラクチャーの開発・提供に関係している全利害関係者を組み入れようと努める予定である。FIDIC には、専門職能団体、金融機関、顧客組織、市民社会組織、教育機関および一連の建設業界組織を含む様々なパートナー組織と一緒に共同作業を行うねらいがある。

活みなぎる刺激的なスペインの都市バルセロナで開かれるこのユニークなイベントでは、業界の発展と同様に、人類の幸福のために改善されてきた 100 年間の貢献をきちんと認め祝福することを目的としたいくつかの特別な懇親行事も提供されるであろう。

11. 持続可能性 Sustainable Development

プロジェクトの持続可能性 Project Sustainability receives a boost

2004 年に公表されたプロジェクト持続性マネジメント (Project Sustainability Management :PSM) 以来、議論の飛躍的な進展は認められた。しかしインフラの真の持続可能性に関する議論は、かなりの混乱がまだ残っている。クライアントと社会の要求への取組みとして FIDIC 持続可能な開発に関する委員会は、業界の最新の考え方を修正し、アップグレードしている。投資決定のための経済的、環境的、社会的特性に関するガイダンスを提供することを目的としたツールの

持続可能な開発に関する委員会
Sustainable Development Committee
William Wallace, USA (chair)
Maisa Al Bataineh, Jordan
John Boyd, Canada
Maxime Mazloum, France
春 公一郎, 日本
Arthur Taute, South Africa
Sangeeta Wij, India
Jean Felix, France

セットを変更し、簡素化に加え、委員会は、プロジェクトの面での意味をより狭く定義しようとしている。実際には、試みは、リソースの使用と実装へのゼロベースの応答で、真の持続可能性を定義するために作られている。それは、新たな方向性がダボスで FIDIC 2011 会議で発表される予定である。

銀行は気候変動への取組みの調和を目指す Banks aim to harmonise approaches to climate change

2011 年 3 月、ワシントンでの FIDIC と開発銀行との会談において、経済、環境そしてインフラ整備の投資判断の社会的な考察の取組みを融合させることが議論された。

FIDIC は銀行が適正な緩和策を検討する時の、持続可能性指標の開発の支援を依頼されている。いくつかの銀行は、気候変動対応の資金で気候変動から生じるコストを補うことを目指している。しかし、カーボントレーディングやグリーン調達のような問題への取組みは時に矛盾しているとみなされる。FIDIC の持続性管理計画ガイドは、現在も更新中であるが、コンサルティングエンジニアによって直接取組まれる問題に重点が置かれている。一連の広範囲な特定の指標の使用し、計画やプロジェクトの実行に大きな影響を与える側面に重点を置いて以来、このガイドは持続可能性指標についての構造的な議論の手助けとなっている。さらに、FIDIC によって開発されている政策綱領の改訂版では、インフラ基盤の整備に対する排出量ゼロの取組みについて、気候変動によるリスクの軽減や緩和のガイダンスと同様に、新たな焦点を提供するだろう。

気候変動への取り組み FIDIC Tackles Climate Change

前会長のジョン・ボイド氏率いる新気候変動作業部会が活動を開始した。政策綱領には、コンサルティング・エンジニアリング産業は世界のインフラの大部分をデザインしており、それ故、気候変動に直面する社会を手助けする中心となる役割を持っている、ということが記載されている。政策では、2つの重要項目に焦点を当てている。1つは、世界中で気候変動が起こっている中で、変動による影響に係わる既存のインフラやエンジニアのデザイン手法の適応の仕方である。もう1つは、デザインされたインフラが、将来的に温室効果ガスの低減に効果をもたらさず、ということである。それによって、大気環境のバランスを保つための手助けになる。草案は、ダボスで開催される FIDIC 年次会議で議論される予定である。

持続可能な建設についての世界的なフォーラムが発足 Sustainable Building and Construction Global Forum Launched

FIDIC は、持続可能な建設を強く約束し、国際的な建設・インフラの利害関係者代表者による NPO グループに参加した。新しい世界的な同盟は、FIDIC の外、BWI (国際建設・林業労組連盟)、CIB (建築研究国際協議会)、iiSBE (国際サステナブル建築環境推進機構)、ILO (国際労働機関)、UNEP-SBCI (国連環境計画持続可能建築と気候変動イニシアティブ) を含む。このフォーラムの大きな目標は、建設環境部門における持続可能性の実践と政策について完全な共通認識を行うための場を提供し、建設およびインフラ部門における持続可能な建設についての国際的な声として認識されるようにすることである。

12. 公正管理 Integrity Management

改良された FIDIC 公正管理システム(FIMS) FIDIC's upgraded Integrity Management Systems(FIMS)

FIDIC ビジネス公正管理システムの略語 BIMS は、「建物情報モデリングシステム (Building Information Modeling System) 」と広く混同されるようになり、「FIDIC 公正管理システム(FIMS)」と名称を変えることになった。倫理と公正は、世界的インフラ整備の重要な課題であり、開発銀行による企業の入札からの排除により一層深く関わってきている。より柔軟な公正管理およびコンプライアンスと罰則の問題のニーズに対応するため、FIDIC は FIMS パート 1 を FIDIC2011 年会議で発行できるように改訂している。

公正管理委員会

Integrity Management Committee

Jorge Díaz Padilla, Mexico (chair)

Liu Luobing, China

Khelane Ndwandwe, South Africa

Richard Stump, USA

John Ritchie, Australia

Paul Oortwijn, The Netherlands

中国当局に称賛された FIDIC 政策 FIDIC policies applauded by Chinese Authorities

2010 年 12 月初旬に広州で開かれた定例の中国コンサルティングエンジニア協会年次会議で、中国国家発展改革委員会の MuHong 副議長は世界のインフラ基盤の倫理と公正の問題に関して包み隠さずに話す FIDIC を称賛した。MuHong 氏はまた、コンサルティングエンジニアは、経済発展に重要な影響を及ぼすと認め、インフラ整備のための多くの投資とエンジニアリング部門のための援助を想定した、さらに国家の次期 5 ヶ年計画の概要を示した。Gregs Thomopuls FIDIC 会長は 700 を超える会議の参加者に対して次のことを指摘した。汚職はインフラ整備の投資のすべての側面に重要な影響を与えることと、クライアントに対し、持続的に質の良いアドバイスを提供すること、そしてコンサルティングエンジニアの能力を阻む不正取引に起因するリスクの影響を受けない会社はないことである。FIDIC 会長は FIDIC の公正管理システムの実施は世界のインフラ開発の腐敗を防ぐのに大きな役割を果たすだろうと強調した。

腐敗防止のサミット、新たな傾向へ Anticorruption Summit identifies emerging trends

IACC は、2010 年 11 月 10 月 13 日からバンコクで 14 回目のイベントを開催し、腐敗に対する信頼回復に重要な役割を果たしている腐敗防止イニシアティブにて、その重要性を強調した。FIDIC 専務理事の Enrico Vink 氏は、建設部門の透明性に関するセッションで発表した。海外に展開する企業の問題が議論され、そこで、FIDIC は腐敗抑制のためのビジネスツールである FIDIC 公正管理システム(FIMS)等とともにその Model Representative Agreement の利点について説明した。第 14 回 IACC 宣言では、UN 報告のガイドをいかに利用して、リスクを管理するかについて企業に呼びかけた。宣言はまた、グローバルな金融市場の完全性と腐敗に対処するための唯一のグローバルな手法であるとして、国連条約の実効性を高めるため、G20 の行動計画を歓迎した。宣言は、世界銀行のガバナンス指標のような第一世代の複合対策、腐敗をグローバルな課題とした Global Integrity Index (グローバルな統合指標) や National Integrity System(国内の統合システム)のような第二世代の実用ツールと同様に Transparency International's Corruption Perceptions Index(透明性の国際的腐敗認識指数)に触れた。宣言ではさらに、(単独の)腐敗そのものに注目せずに(腐敗に関する)統合的な活動能力を測ることにより、(地区の)特異な問題を見出す Local Governance Barometer (地域統括性バロメーター) という第三世代の地域計測ツ

ルを取り上げていた。より建設的なこのアプローチは、政府の調達機関のための FIDIC 独自の FIMS に沿ったものである。そのことで、しばしば形態が変わる腐敗を、より一層監視できるようにさらに重要な一步を踏むことになる。新しいツールの開発により、複雑で、統括する組織構造が不明確な気候変動への百万ドル規模の融資についての責任の所在をきちんと解説できるようになった。それらは、必要性からというより融資目的で運用され、能力開発用としては低レベルの投資が行われていた。

公正管理の実情 The case for Integrity Management

2009 年に OECD が公表した、内部統制のための最適行動ガイダンスに加えて、会社が贈収賄の広がりを絶つことを支援するために、国際商取引における外国官僚の贈収賄撲滅に関する提言に倫理および遵守の補則を加え、会社が OECD の贈収賄撲滅の指標を達成していけるようにした。作業部会は、2010 年の 12 月に会合を開き、会社がいかに発展し、いかに反贈収賄を遵守してくかについて見直しを行った。大企業による個々の行動に対抗して、統括して管理する手法で、FIDIC の結束した行動には大いに関心が集まった。そして統合した運営を行うために時間や経費が必要となることが認識されたが、この時間と経費は、会社の大きさによって異なることが明らかにされた。FIDIC 専務理事の Enrico Vink は、多くの専門会社は、実に公正な経営を行っているが、リスクや優れた専門的アドバイスが有効に提示できなくなってきたため、いくつかの国では経営がうまくいなくなってきたということを指摘している。腐敗に取り囲まれた会社を完全に助け出すことはできないが、腐敗の危険性を軽減する努力や、公正な経営のために裁判をおこすことを認めることは重要であると、彼は強調している。2010 年初めには、ビジネスにおける腐敗を撲滅することを目的とした OECD 会議において、FIDIC 次期会長の Geoff French もまた、腐敗に対処する立場としての FIDIC の経験について理解を求めた。コンサルティング・エンジニア業界は、業界が一丸となってこの課題に立ち向かう数少ない業界の 1 つとなる。

13. 事務局報告 Managing Director's Report

サービス向上へ組織改革 Organisational Changes aimed Enhancing Service

FIDIC に 14 年間貢献した前事務局長 Peter Boswell 博士の退任に伴い、事務局は組織改革に取り組んできたが今後も更なる改革を続けていく。Francois Baillon 博士が財務担当事務局員に就任し、各国でのトレーニングセミナーの開催や書籍の出版など、FIDIC の財務強化策を引き継ぐ。さらに協会運営強化のため、Itaro Goyzueta 氏が事務局運営に加わった。次の時代を通じて連盟会員は、再構築にはさらに数年間が必要であるという認識のもとで、いくつかの再構築を見ていくことになるであろう。FIDIC はこれまでの 100 年間に成し遂げたように、今後も成長をしていくことが可能である。Peter 博士の FIDIC と FIDIC 会員への貢献に心から感謝する。



2013 年の FIDIC100 周年について、FIDIC は Vision (目標)、Mission (行動) をさらに具体化し、次の 100 年間へつなげるため、Vision (目標)、Mission (行動) の一部変更を提案している。Quality (品質)、Sustainability (持続可能性)、Integrity (公正管理) は FIDIC 活動の根幹を成す 3 原則であり、コンサルティングエンジニア業界拡大の象徴である。一方、業界の成長を維持し、助言やサービスの要求に応え続け、収入を増加させ続けるためには、新しい出版物を通して収入を増やし、世界中にトレーニングプログラムを普及させることである。いくつかについては上に説明している通りである。

さらにこの成長を進展するために、FIDIC は対応できる主要な地域において、新たな人材資源の確保を通じて、地域への取組みに焦点を当てる計画を持っている。ジュネーブの FIDIC 本部から各地域へ人を派遣するより、地元で特定の人がいることで、その地区の要求により一層応えることが可能となるであろう。この方策により、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南アフリカ、そして中東という地域グループとさらに親密な関係を作り出し、既存会員協会からの会費に頼るという状況を改善することになる。会員協会では、限られた人材と減少する会員という内部的問題により、すでに改善の取り組みが始まっている。

FIDIC は、再建のため、引き続き多くのボランティアによる献身的な活動に頼らざるを得ない。Italo 氏の参加により、業界で使用される多くの契約約款・ガイド・政策図書等の出版における業務の支援や合理化が促進されるであろう。

Enrico Vink, FIDIC 専務理事